

環境集 環特

海外編

発多洪水に地 動向は上向き

昨年広範に極端な高温現象

温暖化加速の恐れ(WMO)

WMO（世界気象機構）はこのほど2014年の地球の気候は「海・陸ともに極端な高温とひん発する洪水が特徴」とする年次報告を公表した。

WMOの分析によると、2014年は僅差ながら観測史上最も暑い年だったとしている。

また、温暖化の傾向は続いており、観測史上の高温の年の上位15位までの14位が今世紀であること、世界の平均降水量は長期平均値に近かったものの、洪水の発生が多く、温室効果による水循環の加速のためと考えられることが報告された。

さらに、原因特定の技術が進歩し、2014年にイギリスで記録的な高温の観測が大幅に増えたことは、人の影響があると分析されること、気象科学や季節予報などの気象サービ

スの進歩が気候の自然変動や長期的な気候変動への対応に役立っていることが特記されている。

上昇、極端気候といったいくつもの形態で気候が変化しつつあり、その原因は主に人間活動にあることを示している」として迅速な対策をうながしている。



大規模洪水に見舞われたフィリピン市街地

温暖化で各

再生可能エネルギー投資



④デンマークの海上風力発電システム
⑤インドの太陽光発電パネル

途上国で大幅増加示す（再生エネルギー投資）

風力は9・1%のシェア

国連環境計画（UNEP）は、世界の再生可能エネルギーへの投資動向を示した年次報告書で、2014年の再生可能エネルギーへの投資が3年ぶりに回復、2013年から17%伸び2770億ドルに達したと発表した。

太陽光発電コストの急速な低下による中国や日本での同設備の大幅増と、ヨーロッパでの洋上風力発電への史上最高額の投資が伸びをけん引した。

また、中国、ブラジル、インドなど途上国の投資額が前の年（2013年）に比べ36%増と大幅に増えたのが特徴。

その結果、風力などの新たな再生可能エネルギーは2014年の世界の総発電量の9・1%を占め、1・3ギガワットのCO₂排出を削減したことになるという。

課題としては太陽や風への依存という根本的な問題のほか、支援策の不確実性、出力変動電源に対応するための電力システム構造、原油価格の急落などがあるものの、シユタイ

ナーUNEP事務局長は「再生可能エネルギーはいまや世界の電源構成になくはならない要素であり、その重要性は高まり続けるだろう」と示唆している。

一方、ドイツのガブリエル環境相はドイツ中東部・イェナ市にある大手ソーラー関連企業で、ソーラー発電の将来性を強調。ソーラー発電の分野でドイツは研究ネットワークや供給面での体制整備されており、太陽光の分野で世界をリードする立場にあり、現在75社が生産を行っている。

再生可能エネルギーのドイツ国内の売上高は毎年向上、電力消費量のかなりのシェアをしめるまでになつており同大臣は再生可能エネルギーは経済危機を打破、雇用を創出する投資戦略の中心的存在だとしている。

再生可能エネルギーのドイツ国内の売上高は毎年向上、電力消費量のかなりのシェアをしめるまでになつており同大臣は再生可能エネルギーは経済危機を打破、雇用を創出する投資戦略の中心的存在だとしている。